

26PB-am131

開発中および上市済医薬品の正味現在価値の分析を通じた製薬企業戦略の考察

○菅 愛子¹, 高橋 大志¹ (慶應大経営)

研究開発型の製薬会社において、開発中及び上市済医薬品は企業価値を決定する主要な要因の一つである。特に開発中医薬品は将来のキャッシュを生み出す源泉と期待される一方で、その開発過程には長期の時間と研究開発費が費やされている。そのため医薬品開発はハイリスクとハイリターン型の事業とされ、それを扱う企業としては、それら開発中医薬品を適切に管理しながら企業価値へとつなげる必要がある。今回我々は、各企業が保有する開発中医薬品および上市済医薬品の正味現在価値(NPV)を種々分析し、企業や医薬品ごとの特徴を明らかにした。

分析の結果、(1) 医薬品の NPV は開発が後期になるにつれて高くなるが、国ごとの開発状況によってばらつきが出ること、(2) ガンを標的とした医薬品やバイオテクノロジーを使った医薬品が高い評価を受ける傾向にあること、(3) 開発中および上市済医薬品の NPV 合計値が企業の時価総額と比較して相対的に高く評価される場合が発生すること、(4) 企業の NPV 合計値は研究開発費と一定の相関を示すものの、頭打ちの傾向があること、(5) 高い NPV 平均・合計を示す企業においてバイオテクノロジーを用いた医薬品がポートフォリオ (パイプライン) に占める割合は 50%前後であること、などを見出した。

これらの結果は、開発中医薬品の経済的価値および研究開発の効率性について重要な示唆を示すものである。